

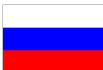
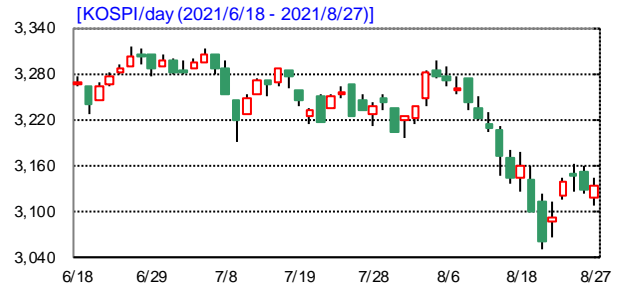


【韓国】 総合指数は週間で2.4%高と3週ぶりに反発、今週は米株とPMIに注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.4%高と3週ぶりに反発。世界的な景気回復への期待を背景に買い優勢の展開となった。米株高の流れを引き継ぎ25日まで3日続伸。国内での好調な輸出統計や来年度の予算規模拡大なども支援材料だった。26日は韓国銀行が約3年ぶりに利上げを決め、過去最低だった政策金利の上昇が確定したことで反落。アジア主要国で初めて新型コロナウイルスの大流行に対応した金融政策からの脱却を図った。一方、27日は米ジャクソンホール会議を控えて様子見ムードが広がる中、金融株が相場の上げを主導して小幅ながら反発した。今週は米ジャクソンホール会議の結果を踏まえた米株の動向に左右されそうだ。国内の経済指標では1日に製造業PMI、2日にCPIや4-6月期のGDPの改定値などが発表される。

▼指数チャート

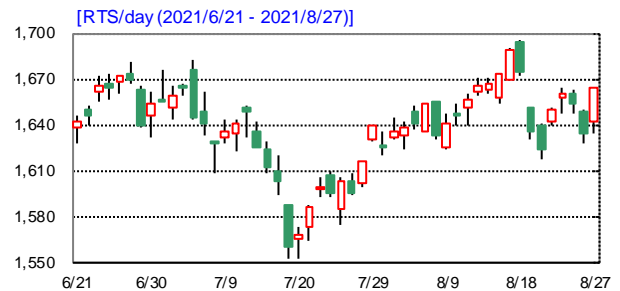


【ロシア】 RTS 指数は週間で2.5%高と反発、今週も原油高を追い風に堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.5%高と反発。原油高を好感したエネルギー株の上昇やルーブル高が支援となった。週明け23日は原油高を受けてエネルギー株が上昇し、指数は前週末比1.6%高と4日ぶりに反発。ルーブル高を受けて24日も0.7%高と続伸した。25-26日はジャクソンホール会議への警戒感から続落したが、27日は原油高やパウエルFRB議長講演を受けたドル安・ルーブル高を追い風に1.8%高と反発した。前週に7.7%下落したブレント原油は11.5%高と急反発し、ルーブルは対米ドルで1.1%上昇した。個別では鉄鋼のセヴェルスターリが3.9%、ノボリペツク製鉄所が3.3%上昇。エネルギーのガスプロムが2.4%高、資源のノリリスク・ニッケルが1.9%高となり、指数を押し上げた。今週も原油高を追い風に堅調か。

▼指数チャート



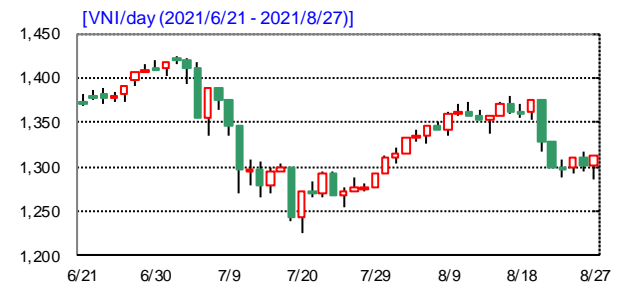
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.2%安と続落、今週はコロナ感染動向が焦点

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は1.2%安と続落。新型コロナの感染急拡大を受けて都市封鎖を嫌気する流れが続いたが、国内勢の押し目買いが一定の支えとなった。週明け23日は前週末比2.3%安と続落。ホーチミン市や首都ハノイを対象にした前週末の都市封鎖を受け、売り込まれる展開が続いた。24日も小幅に続落したが、25日は海外勢の売り越しが続く中、国内勢が主要株に押し目買いを入れ、指数は0.8%高と4日ぶりに反発。26日は反落したが、27日は主力優良株が買われて反発した。個別では金融のテクコムバンクが4.9%、ベトインバンクが4.7%、不動産のビンググループが3.0%下落した一方、ゴム製品のベトナム・ラバーが2.9%高、食品のマサン・グループが1.6%高となり、指数を支えた。今週はコロナ感染状況をにらみ、もみ合いか。

▼指数チャート

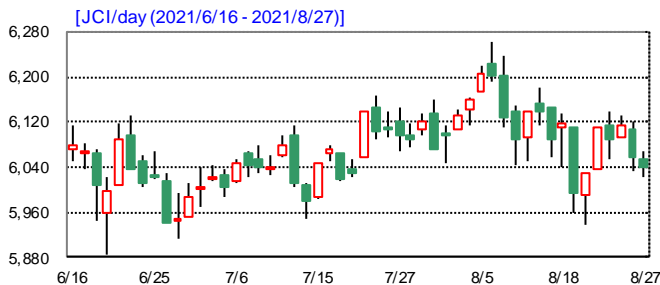


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2%高、週後半の下落が足かせ

ジャカルタ総合指数は週間で 0.2%高と 3 週ぶりに反発。週後半の下落が上昇幅を縮めた。週初の 23 日は、引け際の買いが奏功し、終値で前営業日比 1.3%高と続伸。24 日は中央銀行による国債の追加引き受けが明らかになり、中銀の独立性に対する懸念が広がった影響で 3 日ぶりに反落した。25 日は中銀が今年と来年の物価上昇率が目標の範囲内になるとの見通しを示したことが買い材料となり反発したが、26 日はパウエル FRB 議長の講演を翌日に控えた様子見で反落。27 日はアフガニスタンでの自爆テロを受けて地政学リスクが高まった影響で続落して引けた。今週は 1 日に 8 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

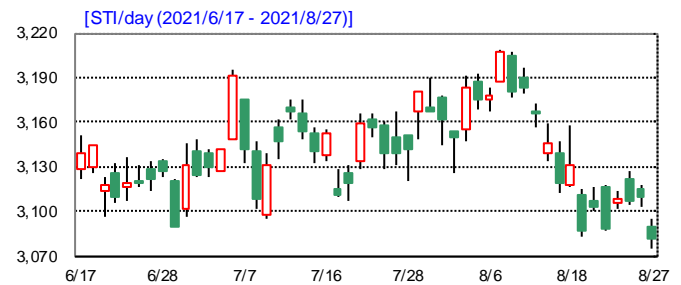


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%安、米量的金融緩和の早期縮小を警戒

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と 3 週続落。週末の下落が響いた。週初の 23 日は、新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加に転じた影響で反落したが、24 日は金融株と不動産株が買われて反発。25 日は前日からほぼ横ばいで推移すると、26 日は 7 月の鉱工業生産が前年同月比 16.3%増と市場予想から下振れたものの、影響は軽微で小幅上昇した。ただ、27 日はパウエル FRB 議長の講演を目前に控え、早期の量的金融緩和縮小に対する警戒感が嫌気され、反落して引けている。今週は 2 日に 8 月の製造業 PMI、3 日に 7 月の小売売上高が発表される予定で、予想を上回れば株式相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート

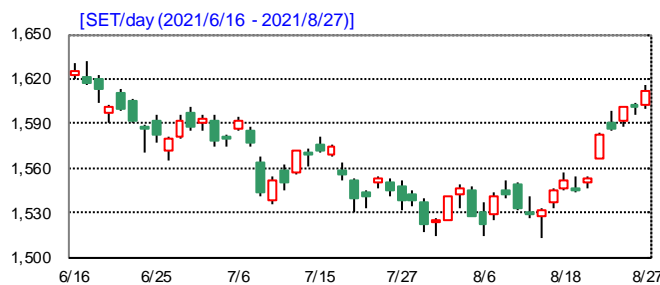


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 3.7%高、感染者数減少と 7 月の貿易統計を好感

SET 指数は週間で 3.7%高と 3 週続伸。週初から 5 日続伸と好調だった。23 日は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したほか、7 月の輸出額（通関ベース）が前年同月比 20.3%増と市場予想を上回ったことが好感され、指数は前営業日比 1.9%高と続伸。24 日は米ドル安パーツ高や原油価格の上昇が買い材料となり、好地合いが続く中、25 日は約 2 カ月ぶりに終値で 1600 ポイントに到達した。26 日は 4-6 月期の失業率が前期からやや改善した効果で買われると、27 日は 9 月 1 日からバンコクなどで行動制限が緩和されるとの発表が指数を押し上げた。今週は 30 日発表の 7 月の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

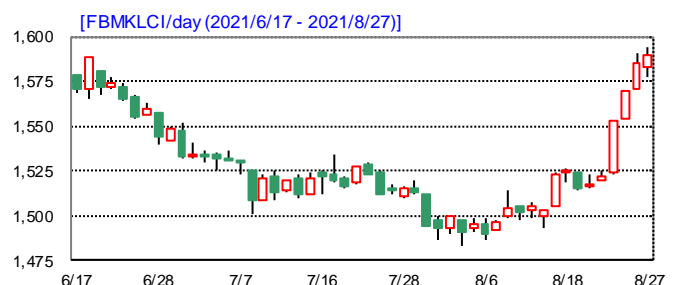


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 4.8%高、政局安定化への期待で 6 営業日続伸

クアラルンプール総合指数は週間で 4.8%高と 3 週続伸。首相交代による政局安定化への期待が指数を押し上げ、週末まで 6 営業日続伸した。週初の 23 日は、前週末のイスマイルサブリ新首相就任が好感されて上昇すると、24 日は売られすぎ銘柄の買い戻しが奏功し、指数は前日比 2.0%高。週半ば以降も買い優勢の展開が続き、27 日は 7 月の輸出額が前年同月比 5.0%増と市場予想から下振れしたものの影響は小さく、終値で約 3 カ月ぶりの高値を更新して取引を終えた。今週は国内の経済イベントが少ない中、27 日に発表された新内閣の動向次第で、節目の 1600 ポイントを試す展開か。31 日は独立記念日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。